

北浜地区倉庫群

内陸の鉱山から小樽港に石炭を輸送するために 1882 年に北海道初の鉄道が開業した後、この町の経済と人口は急成長しました。拡大する港の需要を満たすため埋め立てによって海岸沿いに新たな土地が造成されました。北浜地区は、1889 年に埋立地の上に造られました。ウォーターフロントや手宮線へのアクセスが便利な北浜に多くの倉庫が建てられました。

小樽運河の北端近くの北浜には、現在も商船主が建てた 6 つの石造倉庫が残っています。手宮鉄道施設近くの 3 つの倉庫は福井県と石川県出身の一族により建てられたものです。1889 年建造の広海倉庫と、1894 年建造の右近倉庫、1903 年建造の増田倉庫です。

他の 3 つの倉庫は中央通りの近くの小樽運河沿い、その中間に位置しています。1890 年建造の小樽倉庫と、1891 年建造の大家倉庫、1895 年建造の澁澤倉庫です。これらの 3 つの倉庫は小樽運河に面しており、ここに船が停泊して船から港への荷下ろしをしていました。澁澤倉庫の戸の上部に取り付けられた二重アーチの装飾的な石細工や小樽倉庫建物群の越屋根の上にのせられた伝説の海の生き物の守り彫像など、倉庫にはそれぞれ特徴があります。